

[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1  
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690  
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169  
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117  
http://www.nuis.ac.jp somu@nouis.ac.jp

平成19年7月20日 発行

Vol.35

派遣留学  
夏期セミナー

# 過去最多72人が5ヵ国へ

## 友達の輪を広げよう

「世界がキャンパス」という言葉とともに始めた派遣留学制度ですが、今年は合わせて過去最高の72人の学生が、ロシア、中国、韓国、アメリカ、カナダに旅立つていきます。第1に友達をたくさんつくってきてください。そうすると、帰国後もその国や地域のことに関心が向き、そこからの視点や発想をもち、考え方や行動がより幅と奥行きの深いものになるでしょう。世界に友達の輪をつくりてきて、みんなさんが世界平和の礎となつてください。

そして、第2に、友達をたくさんつくつくるためにも、他者に対する配慮や思いやりをもつて行動をしてください。互いに敬意をもつて接することが理解を深め、信頼関係を構築するためには不可欠です。かたちから入るとすれば「挨拶をする」「日本人だけではなく」「ドアを譲る」などです。向こうから話しかけてくるような雰囲気をつくるということもあります。そのためにも、日常生活とは違った少し気取った気分が必要かもしれません。



カナダで



アメリカで

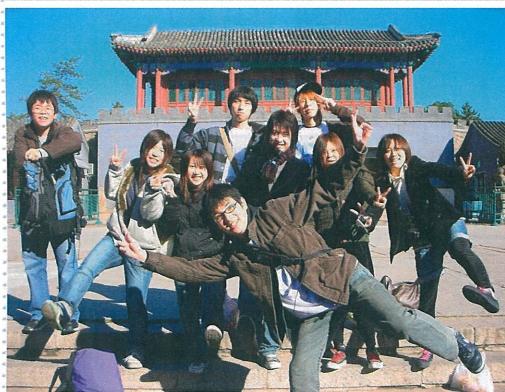
## 事前に現地の街を検索

情報システム学科長 高木義和

インターネットで情報を探すのは日本からでも現地でも同じ結果が得られるはずです。出発までに大学での情報機器を活用してなるべく多くの情報をぜひ集めておいてください。きっと現地の行動範囲が広くなると思います。

まずGoogleを使った地図検索で滞在予定地域の地理情報をチェックして、主な道路などを街の概要を把握しておけば、到着してすぐに街中を歩けます。次に、Google Earthで街を航空写真で見て、街全体を大きく把握してくださり。家の建物が1軒ずつ区別できるので、滞在する場所の実感が伝わってきます。最新のバージョン4では多くのポイントの写真を見ることもできるので、新たな興味を持つ人が集まっている現地のクラブ、団体、協会などを到着する前から街のイメージが理解できます。

さらに、自分と同じような人とのつながりで、現地で自分と同じ趣味を持つ人と現地の言葉で交流できる機会が生まれるかもしれません。インターネットを使つて日本と情報を交換するため、MessengerやSkypeの操作に慣れておくことも有用だと思います。



中国で



韓国で



ロシアで

## CONTENTS

2・3面

海外派遣奨学金授与式と壮行会  
激励と決意ひとこと集  
参加学生の累計表

国際交流フェアで留学の実績を披露  
国際交流インストラクターの活躍  
バルセロナ自治大から特別講師

4・5面

スポーツ大会を終えて  
お薦めBOOK

オープンキャンパス・NUIS-LIVE案内  
私の研究テーマ(2教諭)  
平成20年度入試日程概要一覧

6・7面

新潟中央キャンパスで日本情報経営学会  
教員の活動(2007年上半期)

公開セミナー・映画の中の市民社会  
「政治における嘘」をテーマに3作品

8面

卒業生の便り  
同窓会「みづき会」第10回記念総会  
湧源・編集後記に代えて

# 挑戦をたたえ合い、決意新た

にぎやかに出行パーティ

史上最多の72人  
奨学金を授与

5カ国へ8月から出発

今年度の派遣留学・海外夏期セミナーに参加する学生が過去最多の72人となり、間もなく出発する学生を激励する恒例の奨学金授与式と壮行パーティーが6月13日、みづき野本校の大会議室と国際交流センターで開かれました。

今年度の派遣学生はカナダ・アルバータ大学へ9人、アメリカ・ノースウエスト・ミズーリ州立大学へ25人、ロシア・極東国立総合大学へ12人、韓国・慶熙大学へ10人、中国・北京師範大学へ16人の合計72人。8月5日から9月にかけて順次出発します。

書が贈られました。また学長は「史上最多の72人というたくさんの留学派遣に頗り思っています。語学はもちろん歴史、社会事情など、多くの友と交わりそれが国情も学んでほしい。今年はこそさらに感染症、法定伝染病に注意して対策を。くれぐれも健康に留意して。実りの多いことを信じています」と激励。アメリカコースでは早速、はしか(麻疹)の予防接種などの事前の具体的な指導も行われました。

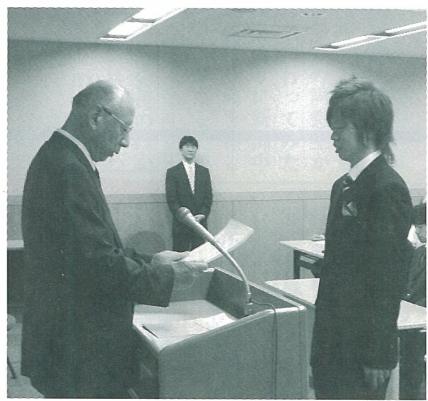
壮行懇親会では、学長や両学科長、国際交流委員会などの教員や事務局関係者



健闘を誓い合って乾杯

〈派遣留学・夏期セミナー参加学生の累計〉

	中国	韓国	ロシア	アメリカ	カナダ	計
平成 7年度	29	14	7	13		63
8年度	15	13	20	17		65
9年度	31					31
10年度				7	14	21
以上 海外研修計	75	27	34	44		180人
12年度	30				20	50
13年度	15	12	6	17	14	64
14年度	17	9	3	13	17	59
15年度	(中止)	4	1	11	6	22
16年度	31	7	2	13	8	61
17年度	18	13	5	12	22	70
18年度	9	5	0	7	3	24
19年度	16	10	12	25	9	72
計	136	60	29	98	99	422人
合計	211人	87人	63人	142人	99人	602人



「頑張って…」と奨学金授与

## 派遣留学 夏期セミナー

では、各担当教師から出発順に全員が紹介され、武藤輝一学長から各コースの代表に「元気で頑張つて…」と証

## 激励と決意 ●パーティでのひと言●

榎木公一・情報文化学部長

「留学をよく決断されました。その前向きな姿勢にエールを送ります。向こうの言葉で多くしゃべり、大いに文化を学び、帰りたくないと思うほどに積極的に学んできたださい。貴重な青春の1コマとなるように。今日から体調に気をつけて無事に行って来てください」

渡辺謙人・アメリカコース代表

「長年の夢を実現できてうれしい。目的を持つて学んできたい。意識して、今度は元気な帰国報告を楽しみにしています」

田村孝平事務局長(乾杯)  
「おめでとう。どうぞ健康に留意して、今度は元気な帰国報告を楽しみにしています」

谷川未歩子・カナダコース代表

「いつかは留学してみたいと思

つていましたが、高校時代に本学に入るとそれが実現できることを知つて、これまで多くの学ぶことができます。向こうの言葉で多くしゃべり、大いに文化を学び、帰りたくないと思うほどに積極的に学んで世界を見渡せると思っています。くじけそうになるかもしれないが、9人で協力し合って乗り越えて、大いに楽しんで、成長してきたい」

鶴井勇太・ロシアコース代表

「まだ1年未満の語学勉強ですが頑張ってきます。ロシア語の仲間は、美しく発音ができる人、しっかり自習・予習していく人、スピーチコンテストで2位になった人、分厚い辞書に挑戦している人、歴史・文化に詳しい人など一生懸命だが、そんな皆に負けないよう

に4ヶ月間留学できることをうれしく思っています。現地でなければ得られない多くのことを学んでまずアメリカそのものの感覚実際に触れてみたい。そしてアメリカ社会、世界に屈指の影響力を持つ国姿、日本では見ることができない日本の姿など。現地での4

ヶ月の生活に不安はあるが、皆で協力し合って大きくなつて帰りました。さらに実際に留学に挑戦し、新しい自分を、新しい世界を発見できると思っています。くじけそうになるかもしれないが、9人で協力し合って乗り越えて、大いに楽しんで、成長してきたい」

渡辺岳・中国コース代表

「以前家族で海外旅行したとき

視野を広くしたいと思っていました。出発の前にその国の文化や歴史を学ぶと同時に、自分の国の文化・歴史も学び伝えたい。一人暮らしは初めての体験になりますが、自分を見つめ直すいい機会でもあります。一日一日を大切にして過ごして、たくさんのこと吸収してみたい」

葛西麻衣子・韓国コース代表  
「現地でさらに語学を学び、多くの人々と交流し、異文化に触れ、自分を高め頑張ります」

と学生たちが和やかに思い思いのテーブルに。大勢の参加で活気あるパーティとなりました。各コースの学生代表が決意を披露して、あらためてお互いに心を引き締め、初めての挑戦と大きな期待に心を弾ませてドリンクで乾杯し、激励し合っていました。

## 国際交流フェア

今年度の「国際交流フェア」は4月16日から5月16日まで、前半はみづき野本校の国際交流センターで、4月26日からの後半は新潟中央キャンパスに会場を移して開催されました。

昨年度の派遣留学制度および海外夏期セミナーの参加学生は合計24人の少人数で、実施されなかつたロシアコースについても、一昨年度参加した現4年次生が担当しました。しかし参加人数に關係なく、例年に劣らないすばらしいフェアとなりました。

各コースとも展示物の選定や作成、パフォーマンスの準備を着々と進め、本校会場の国際交流センターには、ロシア・中国・韓国・アメリカコースはマイクパフォーマンスで会場を盛り上げていました。



短箫のパフォーマンス

留学生の成果、中央キャンパスでも披露

期間の後半は市中心街の新潟中央キャンパスの1階で展示を行い、より多くの皆さんに本学の留学制度の成果の一端を披露することができました。

講演会などに、みんな積極的に参加しています。今年でこの活動は3年目になり、去年や一年に比べてインストラクターの数は増え、それと同時に学内外でも注目を浴びるようになってきました。インストラクターはあくまで学生が中心となって構成されてい

るの、いろいろ調べていく中で興味深い資料が得られたときには、大変さの中にもやりがいを感じられます。

学校をまわる前には実際に海外でワークショップやNGOを学ぶ機会があるので、そこでお互いが意見交換をしながら私たち自身も世界の問題に目を向けています。

これまで同大学に留学し、マリアさんの下でワークショップの方法論などを学んで

何より、本学とスペインの研究教育機関

リカ・カナダに留学した学生の国柄を象徴する特色ある展示となりました。各コースが日替わりで行う昼休みのパフォーマンスでは、留学の成果をビデオやスライドを使用して報告。中国コースは中国語の歌、韓国コースは留学中に習った短箫(たんそ)の演奏、アメリカコースはマイクパフォーマンスで会場を盛り上げていました。

留学生の中でも傑出した活動を展開しているところとして有名です。筆者がかつてノルウェーのオスロ国際平和研究所を訪れた際、平和学の泰斗であるヨハン・ガルトゥング博士と偶然再会し、「現在もっとも注目すべき研究所」として紹介していただきたいのがきっかけでした。

セミナーではまさに平和研究と平和教育の最前線についての報告がなされました。報告では、同研究所が、カタルニヤ政府やバルセロナ市などの行政的な支援をも受けながら、広く地域社会やNGOの活動と連携し、国際紛争の監視や和平構築のための政策提言を行ったのみならず、新たな平和教育や市民教育の場ともなっていきることが紹介されました。世界的な人権も重要なことを感じ取つても

その意味でも、今回はとても有意義な経験だつたと思います。

## 情報文化学科のスタッフ・セミナー

情報文化学科のスタッフ・セミナーに5月23日、スペインのバルセロナ自治大学からマリア・カナダスさんをお招きし、お話を賜わりました。マリアさんが代表を務める同大学平和文化研究所は、ヨーロッパ平和研究の中でも傑出した活動を

有名です。筆者がかつてノルウェーのオスロ国際平和研究所を訪れた際、平和学の泰斗であるヨハン・ガルトゥング博士と偶然再会し、「現在もっとも注目すべき研究所」として紹介していただきたいのがきっかけでした。



▲みづき野中央公園で開かれた歓迎野立ての会で。中段の右から4人目がマリアさん。右から2人目が本学出身の新津厚子さん

## 国際交流 インストラクター

### 分かりやすいワークショップに工夫

情報文化学科4年 片野崇子

国際交流インストラクターは世界中で起こっている戦争問題や貧困問題、不公平などの問題、異文化のあり方などを県内の小中高校生に知つてもらうために、週に1回集まってワークショップの方法を勉強しています。今年は「戦争と平和」「世界の不平等」「異文化理解」という3つの大きなテーマを元に、毎回各グループが発表をして、それについてお互いが意見交換をしますが、それぞれが自分の担当するテーマの知識を高めるために、学外で行われる

学校での集まりではワークショップの勉強が中心ですが、それぞれが自分の担当するテーマの知識を高めるために、学外で行われる

学校での集まりではワークショップの勉強が中心ですが、それぞれが自分の担当するテーマの知識を高めるために、学外で行われる

学校での集まりではワークショップの勉強が中心ですが、それぞれが自分の担当するテーマの知識を高めるために、学外で行われる

学校での集まりではワーク

ショップの勉強が中心ですが、それぞれが自分の担当するテーマの知識を高めるために、学外で行われる



フランスの植民地の歴史を研究するため、私が北アフリカのアルジェリアを初めて訪れたのは1980年4月のことでした。当時は南仏のプロヴァンス大学に留学する貧乏学生で、旅費節約のため、地中海の港町マルセイユから船で首都アルジェに向かうことにしたのです。私が乗り込んだ船のエコノミークラスは、フランスに住むアルジェリア人移民労働者とその家族で込み合っていました。私のアルジェリアとの最初の出会いは、この移民労働者たちでした。

地中海を南下して1夜明け、青い地中海、晴れた空に白く光っているアルジェの風景が近づくにつれ、未知の世界に乗り込んでいくんだといつたのです。私が乗り込んだ船のエコノミークラスは、フランスに住むアルジェリア人移民労働者とその家族で込み合っていました。私のアルジェリアとの最初の出会いは、この移民労働者たちでした。

私の研究テーマの一つは、情報システムです。これは、企業やビジネスに深くかかわるものですが、まだ企業やビジネスに直接触れる機会の少ない学生諸君や高校生の皆さんにはなじみがないもの、あるいは興味はあるが全容が良く分からぬもののが最も知れません。

情報システムの代表例の一つに、誰もが利用する銀行の現金自動預け払いシステムがあります。利用者預金者は、銀行やコンビニエンスストアに設置してあるATMと呼ばれる装置としか接しません。しかし、情報システムは、

## 広範な情報システム

情報文化学科・准教授 桑原 悟

## 私の研究テーマ

## フランス・アルジェリア関係史

情報文化学科・教授 小山田紀子

アルジェリアからのフランス人引き揚げの中には、移民排斥を唱える極右政党を支持する人も多いのです。一方アルジェリアは、独立後の経済政策の失敗から90年代にはイスラーム主義運動が高揚し、地中海を挟んだ両国の現代の政局や経済社会に暗い影を落としています。私はこのような両国の複雑な絡み合った植民地の歴史をひもときながら、またアルジェリア・フランス双方の研究者との交流を通じて、二つの国現在と未来をこれからも見つめています。

## 平成20年度 入学者選抜試験概要(要約一覧)

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日 入学手続き期間
高校長推薦人試	情報文化学科 10 情報システム学科 20	30	19年11月1日(木)～11月6日(火)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あてに推薦依頼を行います。	19年11月15日(木) 19年11月15日(木) 11月30日(金)
	情報文化学科 30 情報システム学科 35	65			面接・小論文 学力推薦要件:全体の評定平均値3.8以上又はいずれか1教科の評定平均値が4.5以上であること。	
	情報文化学科 情報システム学科 若干名				面接・小論文 対象種目については、募集要項で確認してください。	
	情報文化学科 情報システム学科 若干名				面接・小論文	
一般入試	情報文化学科 35 情報システム学科 60	95	20年1月7日(月)～1月22日(火)	新潟上越	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年2月7日(木) 20年2月7日(木) 2月18日(月)
	情報文化学科 15 情報システム学科 20	35	20年1月30日(水)～2月14日(木)	新潟	学科試験を課さず、20年度の大学入試センター試験の成績で判定。各教科100点。 (3科目以上受験した場合は高得点の2教科を合否判定に使用)	20年2月22日(金) 20年2月22日(金) 3月10日(月)
	情報文化学科 10 情報システム学科 15	25	20年2月15日(金)～3月3日(月)	新潟	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年3月13日(木) 20年3月13日(木) 3月24日(月)

### 本学独自の 奨学金制度(給付)

- 学費特別給付奨学金(全学年対象) 授業料全額又は1/2
- 表彰奨学金(2~4年生対象) 10万円
- 海外派遣留学・海外研修奨学金(2年生対象) 15万円~23万円
- 資格取得奨励奨学金(全学年対象) I種5万円、II種2万円

- 学費臨時給付奨学金(全学年対象) 授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2
- 学費授業融資制度奨学金(3~4年生対象) 借入利息相当額

# 2007年度「映画のなかの市民社会」

「日本情報経営学会 54回全国大会」が6月23、24日の2日間、本学新潟中央キャンパスを会場に開催されました。本学会は、今年4月1日に学会名を「オフィスオートメーション学会」から「日本情報経営学会」へと改名し、本大会は新学会発足後としては初めての記念すべき全国大会となりました。

「OA」から「情報経営」へ、「情報経営」の新時代：技術経営を中心として」という統一テーマのもと、3氏のご講演と44件の研究発表が行われました。23日の午後には、記念講演とし

## 「日本情報経営学会」全国大会開く

情報システム学科・講師 佐々木桐子



### 多彩に44件の研究発表

特別講演として中井徳太郎氏（金融庁室長）による「地域金融の再生」と、高橋肇氏（亀田製菓株式会社 お米科学研究室）、学博士／新潟大学MOT）、高戸祥子氏（HWC 株）の4氏のパネリストと、監督したドキュメンタリー作品『Little Birds — イラク 戦火の家族たち』の印象深いシーンを紹介した。

イラク戦争直後のバグダッド市街地の様子などである。その後、イラク国内の刑務所を今年にな

り、綿井氏との間で活発な議論が展開された。

## 映像ジャーナリスト・綿井健陽さん

綿井健陽氏は1997年から活動を始めたフリーDJ（デejay）ナリストである。「アジアプレス・インターナショナル」に所属し、スリランカ民族紛争、スリランカ民主化運動、東ティモール・アチエ独立紛争、マルクス主義抗争（インドネシア）、同時多発テロ後のアフガニスタンなどを取材してきました。2003年以降

ボートを行つてきた。「ボーン・上田記念国際記者賞」特別賞や「ギヤラクシ賞・報道活動部門」優秀賞などを授賞している。

## イラクの戦火 新たな対立

監督したドキュメンタリー作品『Little Birds — イラク 戦火の家族たち』の印象深いシーンを紹介した。イラク戦争直後のバグダッド市街地の様子などである。その後、イラク国内の刑務所を今年になり、綿井氏との間で活発な議論が展開された。

（情報文化学科・教授 越智敏夫）

「映画の中の市民社会」の今年のテーマは「政治における選挙と投票率」で、5、6月に3回にわたって課題映画3作品の上映とセミナーが展開されました。ゲスト講師には映像ジャーナリストの綿井健陽さんを迎え、中東の現実を話していました。1999年以来続いている本講座は、新潟市の映画館「シネ・ウインド」の協力で、市民社会のあり方について考える恒例行事となり、大勢の市民が参加しました。

まず講演で綿井氏は、自身が

つてから取材した映像がスクリーンに映された。それはスンニ派の人間が刑務所内部において拷問を受けたことを泣きながら訴えるものだった。「スンニ派とシーア派の対立なんて以前はなかった。ところが現在のイラクはシーア派によるスンニ派狩りの場だ」とイラク人が語つて



吉澤文寿（情報文化学科・准教授）

- ・(2007)「戦後の日韓関係をどのように考えたらよいのか」板垣竜太・田中宏編『日韓新たな始まりのための20章』岩波書店 (108-113 : 144頁)。

### 2) 学会・研究会報告

池田嘉郎（情報文化学科・講師）

- ・「大家族としてのモスクワ」シリーズ『伝統都市』構想報告会（東京大学出版会、2007年2月17日）。

近藤進（情報システム学科・教授）

- ・「情報インフラと災害に対する課題」信越情報通信懇談会新世代情報通信網委員会2006年度委託研究報告（メルバルク長野、2007年5月24日）。

長坂格（情報文化学科・准教授）

- ・「フィリピン低地社会における家族と宗教実践：イロコス農村の事例」比較家族史学会第49回研究大会（神戸大学、2007年6月16日）。

### 3) その他

池田嘉郎（情報文化学科・講師）

- ・スラブ研究センターセミナー（北海道大学スラブ研究センター、2007年4月18日）

Ian Thatcher氏の報告 "The Mystery of the Mezraionka"に対するコメントーター。

越智敏夫（情報文化学科・教授）

- ・記念講演「市民社会における選挙の意味」選挙管理委員会関東甲信越静支会（長岡市蓬平温泉「泉屋」、2007年1月15日）。
- ・意見陳述「日本国憲法に関する調査特別委員会」地方公聴会（ホテル日航新潟、2007年3月28日）。

小山田紀子（情報文化学科・教授）

- ・(2007) 科学研究費補助金（基盤B）研究成果報告書（仮題番号6320101）『「植民地責任」

て大江和彦氏（東京大学医学部教授）による「医療の情報化と医療改革」、医学部教授による「医療の情報化と医療改革」、稻田大学大学院教授による「情報経営の新時代—グローバル・ネットワーク社会におけるマネジメントのために」、基

のち輝くまちづくり」、基調講演として寺本義也氏（早稲田大学足立興治氏（野村総合研究所上席コンサルタント）と福島正義氏（INTEX-Equidyne Systems, Inc.）による「情報経営の新時代—グローバル・ネットワーク社会におけるマネジメントのために」、基

渡辺昇氏（早稲田大学経営品質研究所）の司会、コーディネータによる「情報システム学科講師（情報システム学科講師）が「新潟国際情報大学におけるビジネスゲーム・シミュレーション演習事例」を報告いたしました。本学からは佐々木桐子

シミュレーション演習事例）で行われている取り組みを報告いたしました。今回の学会は、新潟大学と本学が共に主催校として運営にあたり、大会2日間で全国の大学関係者や企業から192名のご参加をいただきました。

（情報システム学科講師）が「新潟国際情報大学におけるビジネスゲーム・シミュレーション演習事例」で行われている取り組みを報告いたしました。今回の学会は、新潟大学と本学が共に主催校として運営にあたり、大会2日間で全国の大学関係者や企業から192名のご参加をいただきました。

論からみる脱植民地化的比較歴史学的研究』（代表：永原陽子 東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所）第V章 脱植民地化の諸相と「植民地責任」V-1. 「アルジェリアの独立と引揚者の歴史—脱植民地化とフランス・アルジェリア関係一」（267-279頁）。

・(2007)「アルジェリアの独立と引揚者の歴史—脱植民地化とフランス・アルジェリア関係一」東京外国语大学『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第119号 (60-63頁)。

・イスラーム地域研究プロジェクト、講演会DAHO Djebal（アルジェ大学文学部教授）“The Struggle for Algerian National Liberation and Islam” のコメント「コメント：イスラーム改宗運動・ウラマー協会について（英語）」（上智大学、2007年2月24日）。

小宮山智志（情報システム学科・准教授）

- ・新潟市西区自治協議会委員

佐々木寛（情報文化学科・准教授）

- ・司会「平和学には何ができるか（ラウンドテーブル）」日本平和学会2007年度春季研究大会（早稲田大学、2007年6月9日）。
- ・講演「共に生きる人権—21世紀の人権思想」共に生きる人権講座（坂井輪地区公民館、2007年3月6日）。

・特別講義「グローバル化時代の暴力を越えて」（新潟青陵大学、2007年6月15日）。

- ・(2007)「有事体制と自治の解体—新潟の「国民保護」計画問題に取り組む中で」「インパクション」第156号 (110-112頁)。

武藤輝一（学長）

- ・〔鼎談〕武藤輝一、出月康夫、武藤徹一郎 第107回日本外科学会定期学術集会（大阪国際会場、2007年4月12日）。

吉澤文寿（情報文化学科・准教授）

- ・講演「日朝国交正常化交渉の現状と展望」市民大学講座（加茂市民会館、2007年6月18日）。
- ・(2007)「日韓を結ぶ市民交流—教科書問題と戦後補償問題に見る」『学术フロンティア報告書 2006年度』東洋大学アジア地域研究センター (247-249頁)。

# 『約束の旅路』

この映画は、エチオピアのユダヤ人をイスラエルに輸送する「モーセ作戦」で

イスラエルに移民として連れて行かれた黒人少年シユロモの物語である。

1984年、エチオピアからスー丹の難民キヤンプに、ある母親とその息子の9歳の少年がたどり着いた。2人はキリスト教徒のエチオピア人だったが、母親はエチオピアのユダヤ人だけがイスラエルに脱出できることを知り、生き延びるためにユダヤ人と偽ってイスラエルに脱出するよう、息子に命じた。こうして少年はイスラエルに降り立つ。母と別れ故郷を遠く離れて、真実の名前を隠してシユロモと名づけられ、新しい大

## 揺らぐユダヤ人国家 普遍的な愛

しい移民にして「改宗」を強いるラビの横暴に、養父母はシユロモを守った。

やがて恩春期を迎えたシユロモは、白人系ユダヤ人、サラに恋をする。

しかし、敬虔なユダヤ教徒のサラの父親は黒人のシユロモと娘との交際を禁じる。さまざまな苦悩を抱え、シユロモは医者を志し、パリに行く。10年後医師になりイスラエルに戻るが、エチオピア系ユダヤ人への差別に対し、彼は自分

の祖国がイスラエルであることを証明したいという思いで駆られ、イスラエル軍に入隊して戦闘に加わる。しかも、彼の父兄の名前を隠してシユロモと名づけられ、新しい大

地イスラエルで、少年は愛情豊かな養父母に引き取られた。この映画にして「改宗」を強いるラビの横暴に、養父母はシユロモを守った。

19世紀末にヨーロッパで生まれたユダヤ人の祖国への帰還運動、シオニズム運動の結果、1948年に建国されたイスラエルはユダヤ人国家と定義されるが、いまその原則が揺らいでいる。建国時にはヨーロッパ系ユダヤ人が人口の90%

%近くを占めたが、建国後中東戦争が長引く中で、中東イスラーム世界からのユダヤ人移民が増え、現在のイスラエルでは、ヨーロッパ系のユダヤ人とオリエント系のユダヤ人、世俗派と正統派ユダヤ教徒の対立、白人系と黒人系の差別、対立などさまざまな問題を抱え込んでいる。そして今後イスラエル国家をどのような国にしていくかについて国内で激しい文化闘争が繰り広げられているのである。

イスラエル人自身の心の揺らぎがシユロモ一家にも投影されている。映画監督ラデュ・ミヘイアヌはユダヤ人とは何かを問いかねながら、しかし多くの母たちの愛に支えられ生きていく息子を描くことによって、人種・民族や宗教、国家を超えた普遍的な人間愛を描きたかったのかもしれない。

(情報文化学科・教授)

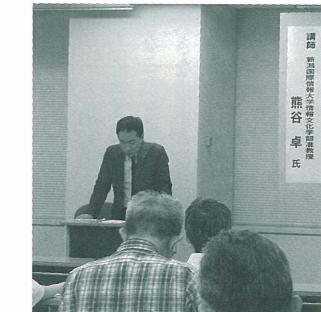
小山田 紀子



講師 新潟国際情報大学情報文化学科准教授 小山田 紀子 氏

# 『パラダイス・ナウ』

## 「終戦」なき対テロ戦争



講師 新潟国際情報大学情報文化学科准教授 小山田 紀子 氏

（情報文化学科・准教授）

熊谷 早

（情報文化学科・准教授）

安藤潤（情報文化学科・准教授）

（2007）「第7章 米国における家計の「過剰消費」に関する一考察－財政政策、消費者金融

（2007）「敵対とモンティスキー：「仁政」の転回と政治的自由」『専修大学歴史学センター年報・フランス革命と日本・アジアの近代化』第4号（82-99頁）。

曰井邦一郎（情報文化学科・教授）

（2007）「米国における家計の「過剰消費」に関する一考察－財政政策、消費者金融

（2007）「敵対とモンティスキー：「仁政」の転回と政治的自由」『専修大学歴史学センター年報・フランス革命と日本・アジアの近代化』第4号（82-99頁）。

越智敏夫（情報文化学科・教授）

（2007）「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」『政治思想研究』第7号（32-56）。

（2007）「市民文化論の統合的機能－現代政治理論の『自己正当化』について」市川太一・梅垣理郎・柴田平三郎・中道寿一編『現場としての政治学』日本経済評論社（89-112：337頁）。

岸野清孝（情報システム学科・教授）

（2007）『流通と物流－基礎から戦略・高度情報化まで』静岡学術出版（全230頁）。

小林元裕（情報文化学科・准教授）

（2007）「蒙疆の日本人居留民」内田知行・柴田善雅編『日本の蒙疆占領』研文出版（197-

）。

（2007）

# 卒業生の便り

堀川 潤



私は東京に就職して4年あまり、「システム屋」として働いています。今まで金融業の基幹システム、POSシステム、コンビニエンスストアの店舗システム等々の開発に携わりました。

情報システム学科2002年度卒業

プロジェクト毎にお客さまの会社の方と一緒に協力し合って一つのシステムを作り、完成したら新たなお客様のプロジェクトに取り組む。こういう仕事のスタイルから、建設業になぞらえてどうか、「デジドカ」などという言葉もありますが、日焼けはしません。

そして、大きく違うのは、プロジェクト毎に自分の役割が変わるので、いろいろ経験でき、蓄積ができるのでしょうか。建設業では、仕事をとおして水道屋さんが電気設計もできるようになる、と

私は東京に就職して4年あまり、「システム屋」として働いています。今まで金融業の基幹システム、POSシステム、コンビニエンスストアの店舗システム等々の開発に携わりました。

4年生は就職が決まって期待と不安が入り混じっていることでしょうか。3年生は少しづつ意識し始めるところかと思います。自分が「本当にしたいこと」って何だろうと悩んだら、「ちょっとでも好きなこと」をやれ

うようなことはないと思います。  
大切なことは自分の手でちゃんと取ることと、それを真剣に愛することです。ちゃんと愛してからならば、たとえ別れがきてもよいと思います。

たくさんの歯車の一つとなつて大きなことを成し遂げてもよいですし、大きな歯車となつて中くらいのことをするのも素晴らしいでしょう。

「歯車」に否定的なイメージを持ついる人もいると思いますが、社会で暮らしている以上、学生であつても既に社会の一員です。

私もまだ若輩ですが、30歳までの仕事に対する基本方針としては、安野モヨコ著「働きマン」第1巻第1話など、参考になると思つています。ご一読をお薦めします。

現在、世界規模の美術市場で最も高価格の日本人アーティストといえば、村上隆、奈良美智、会田誠あたりだろう。しかし彼らの作品は国内の美術館にはほとんど収蔵されていない。奈良の作品が出身地の青森県立美術館にあるくらいだ。日本の美術館あたりでは手が出せないほど高価になつてゐるためでもあるが、より根本的な理由は美術市場、あるいは美術そのものあり方にかかわつてゐる。ちなみに新潟の人は会田誠が新潟市出身で、本学で社会学を教えていた方の御子息だということも知らないかもしれない。

（新潟国際情報大学同窓会）を発足して10年がたち、会員数も2935人となりました。

10周年イベントの母校開催について1期生が卒業し同時に「みづき会」を発足し、10回卒業生を迎えた会員のほか教職員など合わせて100人超が参加し、にぎやかに思い出話を近況を報告し合つて開催されました。今春卒業した第10回卒業生を迎えた。

## 赤塚の原点に戻つて

「みづき会」会長 高橋 翼

みづき会（同窓会）の10周年記念平成19年度総会が6月24日、本校舎で開かれました。多くの同窓生からみずき野キャンパスに行ってみたといい、と声があり、久しぶりに新潟中央キャンパスから本校に会場を移して開催されました。今春卒業した第10回卒業生を迎えた。

10周年を記念して正午から記念講演会が開かれ、ゲスト講師に一年前春に勇退された原口武彦先生を迎えていました。

午後は会場を学生食堂「弥彦」に移し、懐かしい場所で懇親会が行われました。また10周年記念イベントとして募集したシンボルマークを決定、タイムカプセルに10年後の自分へのメッセージが封印されました。武藤学長が祝辞、吹奏楽部による校歌演奏が行われました。また10周年記念伊藤として募集したシルバーマークを決定、タイムカプセルに10年後の自分へのメッセージが封印されました。

10周年記念伊藤として募集



懇親会場で（吹奏楽演奏）

と言われたのが事の発端でした。原点に戻るという言葉の響きの通り、学校に来るのが当たり前だったあの頃を思い出し「学生時代に戻り一日限りの学生気分を味わう」というコンセプトを掲げ、古き良き思い出を実社会での明日の活力にすべく、10周年といういわ

ておりません。

手探りで始めた「みづき会」も、10周年という時を経て、大学の成長と共に着々と成長し続けてるのは確かです。今後も地盤をしっかりと固めつつ、NUIS魂・NUIS愛をもつて活動の幅を広げていけるよう努力していく

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 越智 敏夫

現年、世界規模の美術市場で最も高価格の日本

本人アーティストといえば、村上隆、奈良美智、会

田誠あたりだろう。しかし彼らの作品は国内の美

術館にはほとんど収蔵されていない。奈良の作品

が出身地の青森県立美術館にあるくらいだ。日本

の美術館あたりでは手が出せないほど高価になつてゐるためでもあるが、より根本的な理由は美術市場、あるいは美術そのものあり方にかかわつてゐる。ちなみに新潟の人は会田誠が新潟市出身で、本学で社会学を教えていた方の御子息だということも知らないかもしれない。

しかし、こうした逆転は美術界のことだけではない。例えば日本思想を研究するためアメリカに行つてハリー・ハルートニアンやキャロル・グラック、ノーマ・ライールに教わりたいと考える日本人人大学院生は確実に存在する。理由としては良好な研究環境や就職の有利さも挙げられるが、それ以外に方法論に関する議論の豊かさも大きいのではないか。アメリカにおける日本研究は「日本人ではない他の者の視線」を研究方法の前提とする。つまり何も分かつた気にはなつてない。だからこそ方法論に神経をつかう。そしてその方法論は他の問題領域を語る際にも有効である。

ところが日本人はこれまで日本文化を非常に無神経に語ってきた。最悪の場合には「日本的なものは日本人のみ理解しうる」という無根拠な妄想によつて「他者」の価値さえおとしめてきたほどである。俳句の良さは外人には分かるまい」と公言する日本人は今でも多そうだ。しかしこうした意見を持つことは単なる自民族中心主義という政治的実践であつて、およそ学術や研究の名に値するものではない。

村上らの絵画の価格にしても、日本的なもの（花鳥風月！）に拘泥している日本国内の画家たちの卑小な自尊心を軽々と笑い、とばして作品を作つた結果である。金になれば何でも良いわけではない。しかし「分かる人間には分かる」的な自閉的自己満足は何も生産しない。他の他人と議論し価値を共有する」といふこそ「国際的情報」の価値はある。